

議事録

会議の名称	令和４年度第11回西東京市総合計画策定審議会
開催日時	令和５年２月18日（土曜日）午後３時から５時まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎５階503会議室
出席者	市川武志委員、伊藤一雄委員、伊藤泰彦委員、河野美晴委員、小松真弓委員、篠原京子委員、土井隆司委員、中島伸委員、中嶋亮太委員（50音順） 事務局：保谷企画部部長、佐野企画部副参与兼企画政策課長、鹿森企画政策課課長補佐、里企画政策課主査、鎌田企画政策課主事 欠席：佐々木亮翔委員、佐久間雄一委員、松川紀代美委員
議題	議題１ 開会 議題２ 諮問事項に対する協議検討 （１）基本構想について ①基本理念について ②基本目標について・まちづくりの課題について ③基本施策について （２）基本計画について ①総論について 議題３ その他
会議資料の名称	資料１－１ 西東京市第３次総合計画 基本理念（案） 資料１－２ 他市の基本理念一覧 資料２－１ 第３次総合計画基本目標（案） 資料２－２ 第３次総合計画まちづくりの課題（案） 資料３ 西東京市第３次総合計画 基本施策（案）
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会議内容	
議題１ 開会 会長より開会の挨拶 議題２ 諮問事項に対する協議検討 <u>（１）基本構想について①基本理念について</u> 事務局から資料１－１、１－２に沿って説明	

○会長

基本理念の最終案について、前回の審議を踏まえ、確認したい事項は主に３点ある。１点目は、基本理念案について、前回の審議会では、基本理念のフレーズが長いのではないかと指摘があったため、修正案を提示している。２点目は、基本理念の説明における現在の社会情勢について、文言の修正がされている。３点目は、「いこい」というフレーズについて、「市民が大切に育んできた言葉」との説明を加えている。

また、基本理念の「みらい」について、ひらがな表記にするか漢字表記とするかということについても委員の意見を伺いたい。基本理念の表現について俯瞰的に判断する材料として、資料１－２として他自治体の理念一覧を用意している。自治体名のみ漢字で他はひらがな、という基本理念は、他自治体では町田市のみである。

なお、西東京市の他の計画で基本理念のような位置づけで「みらい」を使用しているものを探したところ、図書館計画基本方針と文化財保存活用計画があり、そのどちらも「未来」と漢字で表記していた。

○委員

ひらがなが多すぎるとやさしくない日本語になり、日本語が母国語ではない人達にとって分かりにくいと感じるため「未来」と漢字で表記してはどうか。

○委員

「やさしさ」と「いこい」に関しては、様々な意味合いが込められているためひらがなの方が伝わるのではないか。市民シンポジウムでは若い人にも参加してほしいという意図で“ミライ”としたが、特別な意図がなければ、基本理念は西東京市民全体に関するもので小学生も読めるので「みらい」は普段通り漢字表記で良いのではないかと感じる。

○会長

昨年度策定した第３次総合計画策定のための基本方針に掲げた、これからのまちづくりに求められる６つの視点は、ひらがな表記がしっくりきたが、基本理念はひらがなが繋がって分かりにくい印象を受けるため「みらい」を漢字にしても良いのではないか。

○委員

「ともにみらいにつなぐまち やさしさといこいの西東京」とすると、「みらい」もスムーズに伝わるのではないか。本書の基本理念の下には説明文も併記されるため、「まち」が入っていれば、全てひらがなでも伝わるのではないかと思う。

○委員

漢字表記はメッセージ性が強くなる。ひらがな表記であれば読み手がメッセージを思

い思いに解釈できる。

○委員

未来だけではなくそこに繋がる今や過去も大事であるため、ひらがな表記が良い。「つなぐ」と「やさしさ」の間にスペースがあることで一区切りつくため、ひらがなが続く読みにくさも解消される。また、早く理解できることだけではなく、ゆっくり理解するペースも大事ではないか。いろいろな人がいろいろなペースで動くので、ゆっくりしたペースに合わせてはどうか。

○委員

他自治体の例で文が長いのはあきる野市や稲城市などである。「まち」をつけて多少長くなったとしても、他と比べても特に差異はないのではないかと。「まち」を足すのであれば、どこかを漢字にした方が読みやすくなる。漢字表記で強調してもよいのではと感じる部分としては、「みらい」か「つなぐ」である。

○委員

漢字が混ざっている方が読みやすいが、現行案のフレーズの長さであれば全てひらがなの表記であったとしても理解はできるように感じる。「ともにみらいにつなぐまち やさしさといこいの西東京」とすると、2つの塊に分かれているように見えるため、全ての単語が「西東京」にかかっている現行案が良いのではないかと。

○委員

基本理念にはひらがなワードがいくつかあり、なぜ、漢字を使わなかったかと説明できた方がよいと思う。「やさしさ」にはいくつもの意味が込められており、「いこい」は「いこいの森」や「いこいな」がいるため、ひらがな表記としていると説明できる。「みらい」についても、言葉に込められた思いについて説明できて、合意が取れるのであればひらがな表記としても良いのではないかと。

○委員

漢字で「未来」と表記すると、その部分のみが強調されて未来のために今があるような印象を受ける。ひらがなの方がゆったりした印象となるため、ひらがなで「みらい」と表記する方がよいと感じる。

○委員

漢字表記か、ひらがなか表記かの違いで、今を大切にしているかどうかを示すことに繋がる、という考えはしっかりこない。みんなを大切にしたい誰一人取り残さないあたたかい

基本理念だと伝わってくる。そのため、表記は漢字、ひらがなどちらでも良いと感じた。

○委員

基本理念はほぼ決まっている。本日のこれからの議論において意見が出てこなければ現行案通り進んでも良いのではないか。

○会長

委員から様々な意見が出たが、基本理念については一旦原案通りとすることとし、本審議会の最後に委員の意見を伺うこととする。

○委員

現在、「いこい」という言葉は環境や緑に対して使用されているが、一人ひとりが認められ大事にされる社会や誰一人取り残さない社会も「いこい」ではないだろうか。

基本理念説明文の「交流が生まれるくつろぎの場」を、緑や公園を指し示すのではなく、社会やコミュニティーの意味合いを含む表現にできると良い。

(1) 基本構想について

②基本目標について・まちづくりの課題について

事務局から資料２－１、２－２について説明

○会長

総合計画と同様に各事業の計画も策定が進められており、総合計画はそれらの計画における課題や目標等と整合性を取っていく。総合計画においては全体の方向性を示し、実現したいまちの姿と、各事業においてできることを述べている。

○会長

SDGsは社会全体における重要度が高い大きな課題である。基本目標の文言に含めるのではなく、基本目標が目指すものとSDGsとの関連が分かるものを別に用意する形が良いのではないか。また、ダイバーシティについて触れる必要があると考えており、高齢者、障害者、子ども・若者といった多様な立場に関する表現を残していく必要がある。

○委員

総合計画は現状を反映した新しいものであるべきで、プラスαの要素が求められる。基本理念のあとに基本目標を統合する目標が必要ではないか。総合的な目標がないと、各事業の繋がりがなく、縦割りといった印象を受ける。

○会長

全体を包括する目標は基本理念であり、基本目標6つを横断して変化を支える仕組みは資料2-1に横断的目標として示されている。この横断的目標は、庁内・庁外と連携して、計画にあらかじめ示すことができない物事に対応する仕組みである。

○委員

変化に柔軟に対応する仕組みは、平時の連携があつてこそのものである。まず縦割りではない仕組みが当たり前にあることが必要である。

○委員

前回の審議会資料に同じような図があつたように思うが、前回の資料にあつた横断的目標の説明文はなくなったのか。

○事務局

横断的目標を含め、各基本目標には説明文を記載する予定である。本資料の図中では、フレーズのみ示している。

○委員

基本目標がこの先10年の西東京市のまちづくりのベクトルとなっていることが理解できた。また、先ほどの基本理念に関する意見交換等についても周囲に伝えていける。「障害者」という表記は西東京市の統一表記か。

○事務局

これまでも「障害者」という表記を使用してきた。

○委員

横断的目標は庁内連携に関するものであると認識しているが、目標には必ず課題がある。庁内連携が課題だと認識しているのか、もう連携はしているがさらに推進する、ということなのか。変化に対応することは大変であるため、課題となることは理解できるが、平時から庁内連携を目標に掲げるのは、効率的な行政運営の面からはなかなか難しいのではないかと。

○委員

市民から見ると、市役所は縦割りが強い。庁内連携がうまく行ってほしい、と思っている人は多いのではないかと。

○委員

「いかなる状況でも柔軟に対応する仕組み」と表現すれば、平時に関しても含めることができる。

○会長

自治体の横断的な柱としては協働・行財政があるが、これをそのまま基本目標6つを横断するものとしても旧来型のあり方と変わらない。旧来の自治体のあり方を超えて、いかに連携できるかが課題である。また、各部署が得た情報をリンクさせて行政サービスの質を向上することも次世代の行政のあり方の大きなテーマとなる。

○委員

基本目標の協働・行財政分野の3段落目に「多様化・複雑化する市民ニーズ」とあるが、多様化・複雑化しているのは市民ではなく社会ではないかと感じるため表現の見直しを検討いただきたい。

○委員

資料2-1の別紙の図の横断的取組について、基本目標の6つの中に含めることで、平時からある仕組みというイメージを示してはどうかと思う。

議題2 諮問事項に対する協議検討

(1) 基本構想について ②基本目標について・まちづくりの課題について

事務局から資料2-2について補足説明

○委員

⑦の「まちの魅力向上・アピール」の目的はどのようなものか。アピールした成果としてどのようなものを望んでいるのか。

○会長

「内外へアピールできるまちの魅力の向上」という書き方であれば、課題とそれに対する取組を示せるのではないか。

○委員

既に住んでいる市民に長く住んでもらうこと、少しでも西東京市に魅力を感じ、西東京市へ来てくれる人を増やすこと、つまりはここにいたい、来たいとなることが目標ではないか。

○事務局

まちへの誇りや愛着を育むための市内へのプロモーションの他に、住みたいと思ってもらうための市外へのプロモーションの取組も含まれる。

○委員

市内外へのアピールという観点で、鉄道路線の拡充が目標にあっても良いのではないか。⑤の「リスクに備えた都市基盤の整備」に「さらに、長期的な取組として」とあるが、10年間の計画の中でこのような表現を使用すると、実現が難しいと思っている印象を与える可能性がある。また、コロナ対策で得られた教訓をニュアンスとして落とし込んでほしい。

○委員

若者を取り込んだまちづくりを進めていく必要があると考えているが、若者の存在が文章から読み取れない。義務教育以降の若者はどこに含まれるのか。

○会長

基本目標の中の「子どもが若者へのとのびのびと成長し、」という表現が良いと感じた。若者について、基本目標だけでなく課題にも盛り込めていけるように修正を行っていきたい。

○委員

②の「子どもにやさしいまちの実現」について、課題は多く書かれているが取組が少なく、記載されている課題に対する取組としてカバーしきれていないような印象を受ける。

○会長

④の「みどりの保全と脱炭素社会への取組の強化」に、グリーンインフラについての委員意見がある。緑については植生や景観、健康福祉等に繋がるが、グリーンインフラは西東京市の課題である浸水被害対策についても表現できるので、都市マスタープランにも関わってくるのではないかな。

○委員

課題と取組について縦割りで書くだけではなく、相互に関係するキーワードを示しても良いのではないかな。グリーンインフラに関しては、緑の保全、防災・減災、ハード面のまちづくりを関連付けて記載することができる。また、施策を展開する上でも、緑関連のセクションと都市整備のセクションが連携して取り組む様子が見えてくる。貧困や若者などの人に関することのケアや成長、見守りについても、同様のことが言える。

目標の枠組みは従来通りで良いが、中の問題が複雑に絡み合っていることや、解決に関しても総合的・横断的に連携していくことを示せると良い。グリーンインフラ以外にも関連して書けることがあるため、丁寧な整理が必要である。

○委員

全体的に、複雑化・多様化した物事に行政が対応できていないようにも読めてしまうため、行政と市民それぞれに役割があり、連携するという書き方ができると良い。

○委員

行政ではできないから市民がやってください、という印象を与える書き方ではなく、市民は主体的に行動しており、行政と市民がそれぞれの役割を持っている中で、一緒に地域を作っていきましょうという表現が良い。また、⑤にグリーンインフラの話が入ると良いと感じた。

議題2 諮問事項に対する協議検討

(1) 基本構想について ③基本施策について、(2) 基本計画について ①総論について
事務局から資料3について説明

○会長

基本施策の内容と施策ページの構成について意見があれば、後日事務局へメールでお送りいただきたい。

最後に審議会序盤で審議を行った基本理念について、本審議会にて事務局から提案のあった原案で進めてもよろしいか。

○全委員

異議なし。

議題3 その他

○事務局

次回の審議会は3月25日の15時からを予定している。

○会長

第11回西東京市総合計画策定審議会を閉会する。

(閉会)